

# 梅の里



学校だより第3号  
平成30年6月12日  
文責：教頭 小池  
TEL 85-2007

## 「えがお かがやけ！ 一致団結！」 6/3



金管バンドの演奏 さあ運動会開始！



チームの勝利を願って



やったー！

完成！



自由にのびのびと舞う



気持ちと気持ちのぶつかり合い！

## 運動会



スピードに乗ったままつなぐ



かわいらしく！



全員で決めのポーズ！

すばらしい天気にもぐまれ、「かがやけ えがお！ 一致団結！」のスローガンのもと、これまで積み重ねて来た練習の成果を出し切った運動会でした。

走る、跳ぶ、投げる、舞う、合わせる、支える、鋭さ、動と静、力強さ…それぞれの演技や競技に様々なすばらしさが表れていました。そして、一つ一つの動きの中に強い気持ちが込められていたと思います。演技や競技に引き込まれ、歓声や応援、拍手や感動の声と共に会場が一体となって、すてきな時間となりました。運動会を終えたとき、たくましく満足げな表情が並んでいました。すばらしい平成30年度宮田小学校運動会だったと思います。会場の準備、片付け等にご協力いただきました保護者の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

## 「感性豊かに、感じたままに表現する」

5年生の田んぼや学校近くの田んぼの田植えが終わり、校歌に歌われるように“青田原”が続いています。そして、カエルが元気に鳴いています。

今日は「感性豊かに表現する、感じたままを表現する」という話をします。

ここで問題です。田んぼのカエルは何て鳴いているでしょう。皆さんにはどう聞こえますか。きっと多くの人が「ケロケロ」とか「ゲコゲコ」と答えることでしょう。

ところが、詩人の草野心平は、4年生の教科書に載っている詩『春のうた』のなかで、カエルの鳴き声を「ケルルン クック」と書いています。どう聞いても「ケルルン クック」とは聞こえないのですが、詩人にはそう聞こえるのですね。

では、「川」の流れる音はどう聞こえますか。

みんながよく知っている唱歌「春の小川」の影響からか、川の流れはどうも「さらさら」というイメージが強いように感じられます。

ここに、5年生の少年が書いた詩があります。

### 川

さら さるる びる ぼる どぶん ぽん ぽちゃん  
川は いろんなことおしゃべりしながら 流れていく  
なんだか 音が 流れるようだ  
顔を横むきにすれば どぶん どぶぶ 荒い音  
前をむけば 小さい音だ。  
さる さるる びる ぼる  
横切ったり びる ぼる どぶるぽん ぽちゃん  
音は どこまで流れていくんだらう



少年には川の音は「さらさら」ではなくて、「さら さるる びる ぼる どぶん ぽん ぽちゃん」など、様々な音として聞こえているようです。詩人でなくとも、小学生がこんな感性豊かな詩を書くことができるのです。

詩ではなくても、感性豊かに表現する、感じたままを表現できるものがあります。それは、「世界で一番短い詩」と言われるものです。なんだかわかりますか。「俳句」です。

長野県は昔から俳句が盛んで、小林 一茶という人を出しています。この伊那谷も古くから俳句が盛んで、農作業の合間を見ては俳句を作っていました。こんな土地が気に入ったのか、江戸時代の終わりごろ、井上 井月という人がどこからともなく現れて生活するようになりました。「北信に一茶あり、南信に井月あり」と言われるほどの人です。

伊那谷のあちらこちらの家に寝泊まりをして、泊めてもらったお礼に俳句を贈っていたそうです。

知られているだけでも 1,800 もの俳句があるそうです。

宮田村も訪れて、学校のすぐ近くの正木屋さんや真慶寺（赤尾先生の家）などに泊まったそうです。5年の田畑先生の実家にも泊まったという記録も残されています。

「水際や 青田に風の 見えて行く」 ちょうど今頃の様子です。稲の苗が揺れている様子から風の動きを詠んだ作品です。どんな様子かちょっと難しいかもしれません。では、これはどうでしょう。

「春の日や どの児の顔も 墨だらけ」 同じ井月の句ですが、これはわかりやすいですね。

俳句は誰にでもできます。自分の思ったことを、「五・七・五」の17音にすればいいのです。あと、季節を表す言葉を入れることになっていますが、意識しなくても入っていることが多くあります。感じたままを表現することが大事です。

5年生の廊下には4月に作った一句が掲示されています。

「菜の花の うしろに夕焼け きれいだな」

菜の花の黄色と夕焼けの赤色が目に鮮やかに、美しく写っています。

「春が来て 雪から芽を出す ふきのとう」

寒い中、ふきのとうが懸命に芽を出そうとしている力強さが伝わってきます。

「こいのぼり 今年も巨木と せいくらべ」

こいのぼりと巨木、どちらが大きくなったのでしょうか。わくわく感があります。

きれいだな、すごいな、と感動したことをありのままに表現していて、どれもすばらしい作品です。

こんなことを繰り返していけば、周りの少しの変化に気づく心が育ち、宮田村のすばらしさを感じ取ることができます。豊かな感性も育ち、自分や友達の良さに気づく心が育っていきます。そして、自分を好きになり、他人を好きになり、宮田を好きになっていきます。

毎月19日、1と9で「一句の日」として俳句作りに挑戦してみるのもいいですね。いい句ができれば、私にぜひ教えてください。

## 6月の校長講話

6/12

### 「ひまわり～花の集合体～」

今は梅雨真最中ですが、梅雨が明けると暑い、暑い夏がやってきます。そんな夏に似合う花の一つにひまわりがあります。

今日は、このひまわりをもとにして、クラスで、あるいは、全校で、一人一人を認め合い、力を合わせていくことの大切さについての話をします。



6月初め、一足早く校庭に立派なひまわりの花が咲きました。「えっ、校庭にひまわり？」と思うかもしれません。

それは、運動会で5・6年生が組体操で咲かせたひまわりです。今年の組体操のプログラムの名前は「ひまわり」でした。すばらしい演技の数々で、立派な花を咲かせてくれ、見ているすべての人を感動させました。

練習は4月から始まりましたが、3階の廊下にはこんな貼紙がありました。「力強く見えるひまわり 実は小さな花の集合体 華やかに見えるのは 多くの努力・苦勞・支えがあるから 組体操も同じ 全員が心をつにして 大きな花を咲かせよう」と書かれていました。小口先生からの、組体操を成功させようという5・6年生に向けたメッセージでした。

今、私が手に持っているひまわりの花はいくつありますか。そう一本ですね。だからひまわりの花は一つ。

ところが、正解は、「よくわかりません」です。

さっき紹介した小口先生の文のように、「ひまわりは小さな花の集合体」です。一つの花のように見えるひまわりも、実はたくさんの花の集まりなのです。

そして、この花を分解してみると、ひまわりには2種類の花があることがわかります。

一つは「舌状花」と言われる花です。舌のような形をしているため、このように呼ばれています。ひまわりの外側の花になります。

もう一つは「筒状花」と言われる花です。筒のような形をしているため、このように呼ばれています。中心で咲いている花になります。舌状花に比べると、小さくてなんだか頼りない感じがしますね。

でも、このように、形も大きさも全く違った花が、支えあって並ぶことで、初めて立派な大きな花となるのです。舌状花だけではひまわりにならないし、同じように筒状花だけでもひまわりになりません。舌状花も筒状花も、きっと、大きくて立派なひまわりの花を咲かせたいと思っているはずです。



組体操も同じで、いろいろな技が集まって、すばらしい演技となりました。そこには、5・6年生全員の、組体操を成功させたいという共通の願いがあったからです。だからこそ苦勞にも耐えることができ、そして、互いに支え合おうという思いになることができたのです。

クラス・学校も同じです。一人一人が、みんな顔も違うし、性格も違う。得意なことも違うし、興味のあることも違うのです。それをお互いが認め合い、支え合うことで、立派なクラスになるし、すばらしい学校になるのです。

なかよし週間です。友達の良さを発見してみんなが仲良しで生活できるようにしていきましょう。そして、ひまわりに負けない、立派な花をクラスに、学校に咲かせていきましょう。それが「宮小家族～自分を好きになる、他人を好きになる、宮田を好きになる～」につながっていきます。